

国立大学法人北見工業大学の平成24年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

北見工業大学は、「向学心を喚起し、創造性を育み、将来の夢を拓く教育」、「個性に輝き、知の世紀をリードし、地域特色のある研究」、「地域のニーズに応え、地域をリードし、地域の発展に貢献」、「国際的視野を踏まえた教育研究、学生・教職員の国際化を推進」を目指している。第2期中期目標期間においては、学士課程において確実な工学基礎能力を持った技術者を養成すること等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、学士課程から連動した「6年一貫教育的プログラム」の推進や、学生の就業意識の向上や学生相互の成長を目的とするスチューデント・アシスタント(SA)制度の導入、ピアサポートの活用等、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

2 項目別評価

・業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(組織運営の改善、 事務等の効率化・合理化)

平成24年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

大学における研究推進の強化や研究戦略の策定等を行うことを目的に、基盤研究に係る大型プロジェクトの策定等を行う「基盤研究推進本部」、企業等との共同研究・受託研究等を行う「産学官連携推進本部」、教員の研究支援等を行う「研究支援本部」及び各本部の下に設置されているセンター等から構成される「研究推進機構」を設置している。

「教育改善推進センター」の下に、担当副学長が指名した教職員で構成する「共通科目(教養科目)見直しワーキンググループ(WG)」等の4つのWGを設置し、それぞれの報告内容を踏まえて教育改善に向けた検討を行っているほか、情報処理センターと図書館を融合し、学内の情報資源及び情報システム等の情報基盤を総合的に管理・運用する「学術情報機構」の平成25年度設置に向け、関連規程の制定等を行っている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載16事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

(外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、 経費の抑制、
資産の運用管理の改善)

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

科学研究費助成事業の採択率向上を目指し、審査員経験者の教員等を講師として「科研費パワーアップ・セミナー」を開催しているほか、申請前にピア・レビューを実施した結果、採択率は 43.2 % (対前年度比 1.5 ポイント増) となっている。

複写機メーカーの一元化について、道内 6 大学 2 高専と連携して総合複写サービスの共同調達契約を締結したことにより、平成 25 年度には 915 万円 (対前年度比 86% 減) の削減効果が見込まれている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 7 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

(評価の充実、 情報公開や情報発信等の推進)

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

北海道グリーン・ビズ認定制度への登録や、「全国エコ大学ランキング」への参加等、環境に配慮した取組を行っていることを社会に示すとともに、学内においては、1 時間毎の使用電力をウェブサイトで公表するなど節電意識の向上を図った結果、使用電力量は対平成 22 年度比で夏季約 27 %、冬季約 15% の削減を達成している。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 5 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

(施設設備の整備・活用等、 安全管理、 法令遵守)

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

公的研究費の不正使用等、コンプライアンスに係る不正防止に対する教職員の意識の向上及び不正発生につながる事項を把握するため、全教職員を対象とした記名方式のアンケート調査を行い、事務手続き等の改善策について検討を行っている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 13 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

・教育研究等の質の向上の状況

平成 24 年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

学生の就業意識の向上や学生相互の成長を図ることを目的として、スチューデント・アシスタント (SA) 制度の運用を開始し、SA とティーチング・アシスタントを効果的に配置することで講義科目等の教育補助業務の充実を図ると同時に、SA の学生には技術指導者としてのトレーニングにもつながっている。

大学の基本戦略に沿った研究プロジェクトを実施する研究ユニット及び研究成果の実用化を目指す公募型研究ユニットに対して、集中的な予算・スペース配分等を実施し、グループ研究を推進している。

電子ジャーナル等への学外からのアクセスを、共通アカウント等による一度のログインで全てのサービスが利用できる認証方法 (シボレス認証) の導入により可能とすることで、利用拡大 (接続数 1,057 件) を図っているほか、英国の著名な学術協会をはじめとする各種データベースの無料トライアルの実施等により、導入に向けた利用ニーズの調査を行っている。

北見市教育委員会と連携し、「おもしろ科学実験」の様子を DVD 化して市内小中学校に配付しているほか、小学校教員の理科実験のスキルアップを目指し「理科実験研修」を実施するなど、理科教育等に係る小中学校への支援を行っている。

産学連携を推進するため、社会連携推進センターの「産学官連携推進員・協力員合同会議」が、北見市等の地域関係者から構成される「オホーツク地域経済活性化検討会議」との合同会議を開催し、「地域資源を活かした『ものづくり』の取組の動向」をテーマとした情報交換を行うとともに大学の技術紹介を行い、同会議における意見等を踏まえてオホーツク管内市町村への個別訪問を実施し、地域のニーズや課題について意見交換を行っている。